

# 樹医からのアドバイス (Vol.17)

～紫外線は植物にとっても有害？～

出雲市樹医センター

樹医 勝部 治良

地表に届く太陽光は私たち人間だけでなく、植物にも大きく影響しています。今回は、紫外線が植物に与える影響について紹介します。

紫外線を浴びると、人間も植物も“活性酸素”という物質が体内に発生します。私たち人間にとっては体の老化を促進しさまざまな病気の原因になります。植物も紫外線に当たりながら生きていくためには“活性酸素”を除去しなければなりません。

そこで、植物たちは“抗酸化物質”と呼ばれるビタミンCやビタミンEを作り、活性酸素の害を消す仕組みを発達させました。ちなみに花びらの色（アントシアニンやカテキン）も“抗酸化物質”です。

緑の葉っぱで美しく装う植物たちは、実は光合成をして、さらに自ら防御物質“抗酸化物質”を作り紫外線対策をしていたのです。

## 【カナメモチの紅色の美しい若葉も…】

カナメモチは、伸び出してきたばかりの若葉を紫外線から保護するために紅色（アントシアニン）ですが、葉の成熟とともに紅色は分解消失して葉は緑化していきます。

## 【木の葉の緑色は…】

植物は光合成をする際、緑以外の光を主に利用しています。このため、吸収されなかった緑色の光が反射することから、木の葉は緑色に見えます。また、人間の目は、図のように緑色の光を敏感に感じるため、植物の葉が鮮やかな緑色に見えるのです。

